

政治① 日本国憲法の三大原則

- 1 国の政治のあり方を最終的に決める力。
- 2 主権者である国民が、国の政治について正しい判断ができるようにするため。

政治② 国民の義務、天皇、憲法改正

- 1 各議院の総議員の3分の2以上の賛成があること。

政治③ 国会

- 1 主権者である国民が直接選んだ代表者で構成されているから。
- 2 参議院にくらべ、衆議院は任期が短く解散もあるため、国民の意見がより強く反映されるから。
- 3 審議を慎重に行うため。(異なる方法で議員が選ばれることによって、国民の意見を幅広く取り入れることができるから。)

政治④ 内閣

- 1 内閣が国会の信任にもとづいて成立し、国会に対して政治上の責任を連携して負う制度。
- 2 10日以内に衆議院を解散するか、総辞職する。

政治⑤ 裁判所と三権分立

- 1 法律などが憲法に対して違反しているかどうかの最終的な判断を下すところだから。
- 2 内閣総理大臣を指名すること。内閣不信任を決議すること。

政治⑥ 地方自治と財政

- 1 住民によって、選挙で直接選ばれる。
- 2 国債(公債金)でまかなっている。(国民からの借金でまかなっている。)

政治⑦ 国民の政治参加

- 1 納税額や性別などの制限がなく、一定の年齢に達したすべての人が選挙権をもつ選挙。

政治⑧ 社会保障制度と少子・高齢社会

- 1 年金保険を受け取る高齢者が増える一方で保険料を納める人が減るから。(少ない働き手で多くの高齢者を支えなければならなくなるから。)
- 2 長所 環境破壊がおさえられる。交通手段やごみ問題などの都市問題が軽減される。 など
問題点 高齢者をささえる若い人の負担が増す。生産力が低下し、経済活動がにぶることがある。 など

経済 わたしたちのくらしと経済

- 1 自分が相手の物を必要としていなかったり、自分の物を相手が必要としなかったりして、交換が成立しない場合がある。(物がくさったりこわれたりして、交換できない場合がある。)

2 国民の手元にお金を残し、ものを買おうとする気持ちを起こさせるため。

国際社会① 国際連合の成立としくみ

- 1 安全保障理事会において、1か国でも反対すれば決議ができない権限。
- 2 地球の北部に多い先進国と、それより南に多い発展途上国の間の、経済的な格差の問題。

国際社会② 国連の活動と日本の国際貢献

- 1 一国だけでなく広い範囲に影響が及ぶため、国をこえた取り組みが必要であるから。
- 2 各国の政府とは直接関係なく、環境や人権などのさまざまな問題に取り組む、民間の組織。

国際社会③ なくならない国際紛争

- 1 第二次世界大戦後の、アメリカを中心とする資本主義諸国と、ソ連を中心とする社会主義諸国による対立。
- 2 暴力や殺人によって、政治についての意見が異なる相手をおさえこみ、自分の主張を通そうとする行為。

国際社会④ 核兵器と核断絶への努力

- 1 第五福竜丸という漁船が、アメリカの水爆実験によって放射線(放射能)を浴びた。
- 2 核兵器をもっていない国が、核兵器を開発したり、ゆずり受けたりしてはいけない。条約で認められた核保有国が核兵器を独占し、それ以外の国が排除されること。

国際社会⑤ 世界の地形、日本と関係の深い国々

- 1 ブラジルはかつて、ポルトガルの植民地であったから。
- 2 関税がなく、人やものが自由に国境を通過できる。仕事の資格が共通しているので、別の国でも働くことができる。

国際社会⑥ 地球の環境問題と自然保護

- 1 南極などの氷がとけて海面が上がり、低地や島が水没してしまう。(海水の温度が上がり、大雨や干ばつが増えるなど、気象に影響が生じる。)
- 2 先進国に木材や畜産物を輸出するために、森林が伐採されているから。(食料を増産するために、過度の伐採や焼き畑、放牧が行われているから。)